

## スポーツ選手における半月板単独損傷に対する 半月板縫合術の治療成績

○中西 雄太<sup>(MD)</sup> (なかにし ゆうた), 長井 寛斗<sup>(MD)</sup>, 松下 雄彦<sup>(MD)</sup>, 荒木 大輔<sup>(MD)</sup>,  
星野 祐一<sup>(MD)</sup>, 神崎 至幸<sup>(MD)</sup>, 黒田 良祐<sup>(MD)</sup>

神戸大学大学院 医学研究科 整形外科

### 【目的】

スポーツ選手における半月板単独損傷に対する半月板縫合術の術後成績を検討すること。

### 【対象と方法】

2008年から2019年に半月板単独損傷に対して縫合術を行った患者のうち、受傷前 Tegner activity scale 7以上で6か月以上追跡可能であった患者41名(年齢 $18 \pm 4$ 歳, 男/女: 29/12)を対象とした。断裂形態, 縫合法, 受傷前・術後の Tegner activity scale, 術前後の Lysholm score, スポーツ復帰率, 再断裂率を評価検討し, さらに半月板治癒群と再断裂群で術前・術中因子の比較検討を行った。

### 【結果】

Lysholm scoreは術前 $62.4 \pm 17.7$ から術後 $98.0 \pm 3.0$  ( $P < 0.01$ )と有意に改善した。全例がスポーツ復帰し, 術後に受傷前の競技レベルまで復帰した患者は34例(82.9%)であった。Tegner activity scaleは受傷前 $8.5 \pm 1.0$ , 術後 $8.1 \pm 1.3$ と有意差を認めなかった。再断裂を6例(14.6%)に認め, 治癒群(35例)と比較し All-inside 法のみで縫合した症例の割合(50% vs 11.4%)が有意に多かった ( $P < 0.02$ )。

### 【考察】

スポーツ選手に対する半月板縫合術の臨床成績は概ね良好と考えられたが, 再断裂も少なくなく, 再断裂を予防するためには Inside-out 法を含めた縫合法で断裂部の十分な安定性を得ることが重要である可能性が示唆された。